

かけはし

KAKEHASHI 2014 vol.43



Contents

名誉会長あいさつ	風間重雄	01
名誉副会長あいさつ	難波道弘	01
後援会会長あいさつ	武川高仁	02
学生生活について	森 稚葉	02
教員紹介	関野陽一	03
	本多明生	04
基礎ゼミだより	窪内節子	05
	山口勝弘	05
大学だより	黒田浩司	06
チャペルセンターだより	大久保絹	06
進路情報	三浦一秋	07
大学生のこころもよう	設樂友崇	09
在学生ピックアップ	磯沙也加	10
	竹内紀晶	10
	長澤瑞奈	10
総会報告/後期行事予定		11
2013年度決算書/2014年度予算書		12



山梨英和大学は、「架け橋」の拠点となる大学

昨年の本誌にも書きましたが、私は、「かけはし」という言葉が好きです。

3.11(東日本大震災)という想像を絶する災害を甲府の地でも様々なメディアを通じて目の当たりにした本学関係者は、被災地や被災者にとって山梨英和大学が「橋を架ける」拠点となることを合い言葉のようにして、様々な活動を行ってきました。

いま、大学には、地域社会における「インテリジェンス(知)の拠点」としての役割が求められています。本学の教員はこれまでもすでに、それぞれの専門分野を活かした社会貢献(社会連携)を行ってきました。もちろんのこと、本学では、学生や職員の皆さんもふくめて、これこそが山梨英和の理念である「敬神・愛人・自修」の発露であるというような地域貢献を行ってきましたが、今後、その方向性が決まってくれるようなことがあってはならないと思っています。最近では、これらの活動が実を結び、知識基盤社会のひとつの拠点として本学から発信されるものが、色々な場で目に見えるようになってきたと感じています。

これからも、「山梨英和大学は、様々な方面への『架け橋』の拠点となる大学」であり続けたいと願っています。



風間 重雄

学長
後援会名誉会長

後援会名誉副会長就任ごあいさつ

2014年4月に副学長(学生サービス担当)に就任したことにとともに、後援会名誉副会長という重職を賜りました。そして、後援会名誉副会長としての最初の仕事が入学式の直後に行われました後援会1年生部会の司会でした。入学式の司会でも相当緊張していましたが、こちらの司会もすごく緊張していたことを思い出します。さて、現在担当しております学生サービス部は「教学・学生生活・進路支援・国際交流」に関する業務、すなわち学生のみなさんをあらゆる面でサポートする部署です。早いもので私が山梨英和大学に着任して10年以上になりますが、自分が何もわかっていないことを痛感しつつ、日々の業務をこなしております。

いま、どこの大学でも生き残りのために、あらゆる方策を立てて大学改革を行っています。ただしその中心は「教育」であり、いかにして学生を育て社会に輩出するかということに尽きると思います。本学においても大幅に遅れていたICTインフラにメスを入れ、キャンパス内に無線LANを整備し、MacBook Air(ノートパソコン)を全新入生に貸与するという大改革を実施しました。これによってキャンパス内の風景もずいぶん変わりました。さらには学びのスタイルや枠組みが大きく変わろうとしています。しかし、パソコンはあくまでもツール(道具)でしかありません。学生のみなさんには主体的に情報を取得したり、発信したりする姿勢を身につけてほしい。そして「学ぶ」ことの楽しさを知ってほしいのです。そのために教職員一同、学生のみなさんを全力でサポートします。後援会のみなさまにおかれましても、そのような学生・大学の動きに、より関心をもっていただければ、それが非常に大きな「応援」となります。今後ともご指導のほどをよろしく願いいたします。



難波 道弘

副学長
(学生サービス担当)
教授
(情報システムコース)
後援会名誉副会長

生きるちから～共に助け合うことの大切さ

2014年2月14日から15日朝にかけて、山梨県地方では、過去に経験したことのない大雪となりました。山梨県内の鉄道はもちろん、道路交通網は寸断され、食料品等の生活物資の供給が滞り、大変な状況となりました。

15日の早朝から、私と妻、三男の三人で、自宅の雪掻きを行いました。ひと段落した後、私たちは、近所の高齢者宅へ向かい、生活道路を確保するため、雪掻きのお手伝いをしました。すると、隣近所の方も駆けつけて、協力し合いながら除雪しました。高齢者に大変喜ばれ、私は、「共に助け合うことの大切さ」を強く感じました。

現在、放映中のNHKの朝の連続ドラマ「花子とアン」の主人公「村岡花子」は、山梨英和学院に深い関わりがありました。少し、この「村岡花子」に触れてみたいと思います。

彼女は、山梨県甲府市に生まれ、東京の東洋英和女学校高等科を卒業し、山梨英和女学校（現在の山梨英和中学校・高等学校）の英語教師として赴任しました。教師として勤務しながら、短歌や童話、少女小説等を執筆されました。山梨英和女学校を退職後、女性向け・子ども向け雑誌の編集者として東京で働き、福音印刷合資会社の経営者「村岡徹三」と結婚しました。その後、長男「道雄」を授かりましたが、不運にも5歳の時、病死しました。関東大震災の影響で、夫の印刷会社は倒産し、第二次世界大戦終結後、七年間で十冊の「アン・シリーズ」を翻訳出版しました。彼女が75歳のとき、脳血栓により、生涯を終えました。私は、このような偉大な人が、山梨英和学院の歴史に関係していることが非常に嬉しく思いました。

今年度、私は、山梨英和大学後援会の会長として、二年目になります。風間名誉会長をはじめ、父母のみなさま、教職員のみなさまと協力して、「強く、たくましく、賢明に生きた「村岡花子」」のように、山梨英和大学の学生が「生きるちから」を養っていけるよう、後援会活動を通して、精一杯応援して参ります。ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。



武川 高仁

山梨英和大学
後援会会長

多様な活動を通じた学びと成長

7月8日朝、授業開始前に、学生たちは中庭に荷物を運び、テントを立てて、「七夕祭り」の準備に大忙しでした。「晴れてよかったね」と言う私に、「先生も来てください」と笑顔で応じます。そして午後、酷暑の中、地域の人々にかき氷を振る舞う表情はとても活き活きしていました。本学では、このような学生主体のイベントが数多く行われています。

こうした姿に触れると、大学での学びが授業や演習に限られていないことを実感します。彼らは、サークル活動や各種のイベントを企画準備する過程で、仲間内だけでなく地域の人々まで視野を広げて企画を考えること、段取りをすること、必要な交渉をすること、多くの人と協力し合うこと、を学んでいます。何より、大学生活に主体的に関与し、何かを創造したという経験が、彼らの自信を育てていると感じます。

今春から、私は役割上、学生たちのサークル活動や文化祭企画の相談に乗る機会が増えました。その中で、学生たちは地域社会の人々と関わる価値ある活動をしているし、良いプランを持っているのに、他者（特に学外の人々）に伝え、アピールすることが不得手かもしれない、と気付きました。一方で、共に考える時間を持つと、私の言葉を素直に吸収し、彼らなりのやり方で消化し、成長していく姿にも驚かされました。大学や教職員には、学生が主体的に多様な活動に取り組む経験を通して、豊かに学べる場を提供すること、（過干渉にならない程度に）必要なサポートを提供することが求められていると思います。

このような課外活動は、大切な学びの場ではありますが、それらと学業との両立も重要なテーマです。学期初めにゼミで成績指導をすると、サークルやアルバイトが忙しすぎたり、ボランティアをやりにすぎたりして、「出席が足りなくて…」と申し訳なさそうにする学生が数名はおります。こうした失敗を通して、生活のバランスを取れるようになることも、大学ならではの経験だと感じます。



森 稚葉

准教授
(心理臨床・心理社会コース)
学長特別補佐
(学生生活担当)

山梨の企業アーカイブズ

関野 陽一

教授 (ビジネス・コミュニケーションコース)
学長特別補佐 (入試担当)



私の専門分野は図書館情報学ですが、関連分野としてアーカイブズや記録管理といった領域があり、これらにも大いに関心があります。最近、アーカイブズはテレビ番組のタイトルにもなり、この言葉を目にする機会も増えてきました。アーカイブズや記録管理の分野では主に文書などの記録類を扱い、大雑把な定義ですが、アーカイブズでは歴史的な資料を扱い、記録管理では現役の資料に焦点を当てることになっています。ここでは、アーカイブズの中でも私が関わるビジネス・コミュニケーションコースと縁の深い、山梨県内の企業アーカイブズについて紹介しようと思います。

アーカイブズという言葉ですが、ここで話題にする範囲では史料および文書館といった意味で使われます。一般的にアーカイブズというと官庁などで作成する公文書と、その保存機能を担う公文書館のことをさす場合が多いのですが、最近、企業のアーカイブズもその存在が注目されるようになってきました。

企業のアーカイブズという場合、多くの人に目に触れる形式としては、社史と企業博物館が代表的なものです。社史は企業の歴史を記したもので書籍として刊行されるのが多く、わが国ではこれまでに一万数千点出ているといわれています。近年、ホームページで公開されるデジタル社史も登場しています。企業博物館は、現在国内に500以上存在します。

それでは、山梨県内の社史や企業博物館の状況はどうなっているのでしょうか。社史は図書館情報学の分野では灰色文献と呼ばれる、刊行状況が把握しにくい文献とされています。書店で販売されるケースはほとんどなく、社内や取引先あるいは図書館や研究者などに配布され、その範囲は限定的です。

私はこの数年、山梨県内企業の社史の刊行状況を調べてきましたが、まだ全貌を把握するには至っていません。これは先に述べたように、いわゆる灰色文献と扱われる性格上、調べにくいのです。既刊の社史を調べる目録として、私も編集に関与した『会社史総合目録 増補・改訂版』(日本経営史研究所編)がありますが、1990年代初めまでの収録で、モレもあります。

調査するに当たって、まず山梨県立図書館の目録から調べ始めましたが、県内企業の社史が必ずしも網羅されているわけではないと分かりました。その後は、県内の図書館を訪問する機会があれば必ず郷土史料(県内の刊行物はここに集められているケースが多い)のコーナーを調べるのが習慣になり、いくつかの発見もありました。

これまでに県内企業が刊行した社史はいろいろありますが、「富士山麓史」(富士急行編、1977年刊)や「創業百年史」(山梨中央銀行編、1981年刊)などは図書館で閲覧できることが多いので、社史とはどのようなものかを知る上で是非ご覧になることをお勧めします。双方とも最近の社史ではありませんが、自社の歴史だけでなく、事業を展開する地域の学術的な研究や県内の銀行史などが収録されており、商業出版物にはない特長が理解できると思います。

一方の県内の企業博物館ですが、昨年10月に帝国データバンク史料館が開催した、「日本の会社展 第3回企業博物館」では、「印伝博物館」と「山梨中銀金融資料館」が紹介されていました。ほかにも、「サントリーウイスキー博物館」や「シャトー・メルシャンワイン資料館」などが企業博物館として存在します。

社史や企業博物館に代表される企業アーカイブズは何のための存在するのでしょうか。企業の立場からは、①社外に向けた広報、②社内に向けての教育、③未来に向けての学習(企業史料協議会編「企業アーカイブズの理論と実践」より)と理解されています。

産業遺産が注目されており、企業アーカイブズも地域活性化の要素になり得ます。大学の立場から企業アーカイブズを考えると、研究、教育面での様々な可能性を秘めていると考えられます。就職活動に臨む学生にも、受験したい企業の社史を手取るよう薦めています。

感謝の心理学

本多 明生

准教授 (心理社会コース)



2014年5月24日(土)に開催された山梨英和大学後援会総会にて「感謝の心理学:感謝して受け取る者に豊かなる収穫あり」という題目にて講演を行わせて頂きました。副題の「感謝して受け取る者に豊かなる収穫あり」という言葉は、ウィリアム・ブレイク(18~19世紀に活躍した英国の画家・詩人)が残した言葉です。講演では、感謝の気持ちが私たちにどのような効果をもたらすかを心理学の視点から解説させて頂きました。

デモンストレーションを行ってみましょう。筆記用具と便箋を準備してください。

「お世話になっている人に普段伝えていない感謝の気持ちを伝える手紙を作成してみてください。その人がしてくれたことを具体的にあげて、あなたがどんなふうに関心、どんなふうに関心しているかを書いてください。

この感謝の手紙のデモンストレーションは当日の講演で実際に行ったものです。これまでたくさんの方にこのデモンストレーションを行いました。体験者からは「幸せな気持ちになった」という感想が多く寄せられます。それはなぜでしょう。感謝という感情は、心理学では「他者の善意によって自己が利益を得ていることを認知することによって生じるポジティブ感情」と定義されています。感謝の気持ちをもつことは、文化や宗教、そして時代を超えて重視されてきました。この事実は、感謝という感情が普遍的な感情であること、そして長い進化の過程で人間に備わった適応的な感情であることを意味します。これまでの研究から、感謝という感情は、(1) 他者からの善意に対して敏感に反応する特徴があり、見返りを期待する行為に対しては生じにくいこと、(2) 感情が生起すると、親切にしてくれた相手に謝意を伝えたいこと、そして(3) 全く関係のない人に対してまで親切に振る舞うようになることが明らかにされています。

本題に入りたいと思います。ウィリアム・ブレイクが残した「感謝して受け取る者に豊かなる収穫あり」という言葉は正しいのでしょうか。おそらく、皆さんは、感謝の気持ちをもって生活している人は日々幸せそうに暮らしている人が多いということは想像に難くないと思います。事実、様々な調査から同様の結果が得られているのですが、どうしても一つの疑問が生じます。それは「感謝の気持ちが幸福を生み出しているのか」、それとも「幸福だから感謝の気持ちをもてるのか」という因果関係に関する疑問です。

エモンスという研究者は、参加者に一定期間ありがたいと思うことをあげてもらって感謝介入実験を行うことでこの謎に挑みました。実験の結果、介入期間の違い(毎日二~三週間もしくは週末のみ十週間)や介入を行う参加者の違い(大学生、一般人など)によらず、感謝介入条件は比較条件や統制条件よりも幸福感がアップすることが示されました。さらに感謝介入条件では睡眠や運動後のリフレッシュ感も改善することが分かりました。この実験結果は、感謝という感情は幸福感を生み出すこと、そしてウィリアム・ブレイクが残した言葉「感謝して受け取る者に豊かなる収穫あり」が正しいことを示唆しています。

その後の研究からは、感謝介入の効果は否定的な感情を抱きやすい人で大きいこと、介入をやめた後も1か月程度はポジティブな効果が残存することが報告されています。そのため、「感謝して受け取る者に豊かなる収穫あり」という現象が発生するのは、感謝の介入を一定期間継続することによって生じる「物事の見方や捉え方の変化」が原因ではないかと考えられています。

山梨英和大学は「上質な文化の発信地」をスローガンの一つに掲げています。私が今回お話しさせて頂いた内容は、いわき明星大学に赴任していたときに学生諸君と取り組んだ研究がもとになっています。私は、山梨英和大学に本年度着任しましたが、学生諸君と一緒にどんな文化をこれから発信できるのか、とても楽しみにしています。

人間関係構築を考慮に入れた授業

窪内 節子

副学長(広報戦略担当) / 教授(心理臨床コース) / 後援会名誉副会長



山梨英和大学には、大学に入学して学生が大学で学ぶための基礎的な力を身につける初年次教育の一環として、基礎ゼミというクラスが設置されています。その基礎ゼミの単位を何らかの理由で取得できなかった学生のための基礎ゼミ再履修クラスの昨年からはじめました。大学という高等教育機関に、このようなクラスと設置することは、大変珍しく、さすが「日本一あたたかい大学」を目指す山梨英和大学の試みといえるものです。昨年に続いて私が再履修クラスを担当することになり、新たに様々な工夫を加えて、現在授業が進行中です。新たな工夫として、まず授業を進めるにあたって、学生達の単位取得状況や単位が取得できなかった理由などを聞いてみました。分かったことは、決して彼らの能力が劣っているのではないということでした。大学に馴染めない、友人や居場所を見つけられない、そもそも人見知りで親しくな

るのが苦手で、段々と大学に行かなくなってしまったなど、要するに对人不安や人間関係が苦手なために、学業に気持ちが向かないということが大きな原因でした。そこで、私は通常のテキストを学びつつ、「人見知り」を直すワークと一緒にやることにしました。始めでみると、なかなか心を開かなかった学生達でしたが、「人見知り」という共通の問題を持っているという安心感からか、段々と心を許し合い、共に学習できるようになり、出席率もあがりとても楽しいクラスになっています。

このように、能力がないと簡単に切り捨てるのではなく、教員・学生同士の関係を密にして人間関係構築をはかり、その結果見えてくる学生の姿に対応する授業を展開できるかどうか、大学全入時代を迎えて、求められる教員側の教える能力ではないかと考えています。

日常の雑感

山口 勝弘

専攻主任 / 教授(心理社会コース)



基礎ゼミナールは新生20名と教員1名から成り、2年間、様々な事柄を共有しながら互いに切磋琢磨していく学習集団です。彼らに対しては、高校生から大学生に円滑に移行していくために必要な「自己への理解」、「対人関係の営み」、「将来の夢や進路」等々、社会人になるための第一歩としての青年期の課題を伝え、皆と一緒にこれらを検討していけるような人間関係を構築していきます。「自分との出会い」や「主体的に生きることの大切さ」に気付いてもらうために、1教員として次のことを自分への戒めにしています。

〈えせ・ソクラテス〉：教師は職業病(?)として、人前に立つと知らず知らずのうちに、「あるべき論」をぶってしまうことがあります。小生だけのこともかもしれませんが、この“知らず知らず”がくせ者で、相手のためと思って話していることが自説を主張していることに気付かない場合があります。相手が自分に何を求めているかを丁寧に確認することなく関わると、無神経な人になってしまいます。雄弁なソクラテスははずば

らしい聴き手であったに違いないと思うのであります。

〈物分かりの良すぎ〉：「物分かりの良さ」は誰にでも歓迎されます。これには本物と偽物があります。偽物とは我慢の上に成り立っている物分かりの良さです。一見当たりの柔らかさを感じますが、何か不自然で安心できません。この姿勢は人に不安や戸惑いを与え兼ねず、人間関係を崩壊します。他方で、意見や批判を自由に言える人の場合も、相手がそれをどのように受け止めたかについて鈍感になってしまう場合があります。何でも言えばよいということにはなりません。いずれも適切な物分かりの良さにはなりません。

これらのことはゼミの若者にもぜひ伝えたいことでもあります。最後に、誰にとっても度々の失敗とささやかな成功、そして自立へという過程を厳しく、暖かく見守ってくれるようなキャンパスコミュニティを皆で構築できたらと願っています。

山梨英和と社会連携

黒田 浩司

教授(心理臨床・心理社会コース) / 学長特別補佐(地域連携推進・大学評価担当)



山梨英和学院では今後いっそう、社会連携・地域貢献に力を入れて、真の意味で地域社会に貢献する大学を目指すことになり、小生は山梨英和大学の地域連携推進担当の学長特別補佐を拝命した。本学はもともと社会連携・地域貢献活動が活発であり、授業やゼミで地域社会に参与しており、サークルや学生会のボランティア活動も活発である。東日本大震災の被災地ボランティアにもさまざまな形で協力しているし、大学院の実習施設である心理臨床センターも被災地から避難をされている方々や県内で生じた問題への心理的な支援も積極的に行っている。しかし、山梨英和が真の意味で地域に後援する大学となるためにはこれだけでは不十分である。

今後必要とされるのは第一に、地域・社会で活動するための基本的な理念や姿勢を全学生に身につけてもらう体制を整えることである。身なりや言葉遣いから報告書の書き方で、学生たちが円滑に活動に入ってゆけるような準備体制を整えたいと考えている。もうひとつ重要なことは、地域・社会

での活動が単なるボランティアやお手伝いではなく、学術的な営みと結びつき、専門的な学びを深化させることにつながる。さらに、学生が卒業後に山梨英和学院の近辺で社会活動を送ることになった際にはこの体験を生かして、真の意味で地域で活躍する社会人として活躍して欲しいと考えている。現在は社会連携センターを中心に山梨県や甲府市・甲州市・笛吹市・山梨市の担当者と協議を重ね、いくつかの連携活動を始動させているところである。また社会連携に関する学びをカリキュラムの中に反映させるべく学生サービス部と調整を重ねている。

活動を開始して実感するのは山梨英和大学の周辺には大学が貢献できる機会が無限にあること。学生がこういった活動に参加することとそれをサポートすることにより、学生が専門分野に関しても、人間的にも大きく成長する可能性を実感することである。

チャペルセンターだより

初志を受け継ぐ

大久保 絹

宗教主任補佐



山梨英和女学校初代校主・新海栄太郎は、『神の前に全ての人々が許され、人格として尊重され、愛される存在であること、一人ひとりがかけがえのない大切な生命を神から与えられている』という考えを基に、学校設立に情熱を注ぎました。そして、その情熱と召命を得て海を渡ってきたカナダ婦人伝道会社の女教師の働きとにより、この地にミッションスクールが誕生し、今日までその歩みが守られています。

本学では、礼拝・キリスト教の講義・宗教行事・宗教活動などが大切に守られ、チャペルセンターはそれぞれに深く関わっています。またチャペルセンターは、学生のみならず、教職員、同窓生など多くの方々に開かれたところであり、ミッションスクールの象徴的な場所です。毎日必ず誰かが顔を見せてくれます。明るい声と笑いに満たされることもありますし、深刻な表情でいま抱えている問題を話してくれる学生もいます。様々な背景を持ち、この場に集う学生から発せられ

る多様な声に耳を傾け、心に向け、たとえ苦しみの中にあっても、乗り越える力が与えられるように、また神はすべてをみて備えてくださるようにと、一人ひとりのために祈ることは大切な営みだと思っています。

チャペルアワーや講義を通して蒔かれた聖書のことばが、これからの人生において支えになることが必ずあると信じています。すべての学生に信仰が芽生えるわけではありません。けれども、キリスト教精神を礎とした人格の尊重、いのちの大切さ、隣人愛、平和への思いが養われ、育まれていくのがミッションスクールである山梨英和の教育ではないでしょうか。艱難にであったときのみならず、喜びの中にあっても、それまでに会った聖書のことばによって生かされ励まされる、そんな体験を一人でも多くの学生にしてもらいたい、そのようなミッション(使命)を自覚しながら歩みを進めたいと思います。

「就職試験の後ろ倒し」と「インターンシップ」

三浦 一秋

学生サービス部 次長

1. 就職試験の後ろ倒し

「7月1日時点での就職志望者のうち、大学生の就職内定率は71.3%で、前年同月の65.0%に比べて6.3ポイント高かった。」と、株式会社リクルートキャリアが発表しました。

この調査は、リクルートが運営する就職情報サイト「リクナビ」のモニター会員を対象とした、いわゆる特定の層を調査対象としたものです。実際には、4年生全体の内定率は、この数値よりも低い割合だと思われそうですが、昨年度の就活生と比較すると、売り手市場(学生有利)になっているようです。その理由としてアベノミクスなどによる経済の活性化や数年来、採用人数を絞ってきたため人員不足となっていることが挙げられます。リーマンショック以降、就職氷河期の再来といわれるほど、厳しい状況でしたが、学生にとって徐々に有利な状況になってきました。

売り手市場の背景には、就職試験の後ろ倒しの影響もあるのでは、と私は考えています。「就職試験の後ろ倒し」は、学業を優先する為に、政府が経団連に要請したもので、採用スケジュールは表1のようになります。選考活動の開始が、現在の4月1日開始から、8月1日開始と4ヶ月後ろ倒し変更されます。これは、現在の3年生以下から対象となります。

この「後ろ倒し」がなぜ、現4年生の就職活動に影響を与えるか、といいますと、その「不透明さ」が影響していると考えています。「不透明さ」とは、実際に企業が採用活動をいつ始めるか、現時点では全くわからない状況です。経団連に加盟している大手企業はそのルールに従う見通しなのですが、加盟していない企業や外資系企業はこの申合せに従わない可能性が高いと考えられています。つまり、選考活動開始を8月1日より前に実施する可能性があるのです。このようなこともあり企業側も採用スケジュールを立てにくくなっています。このため、来年度以降、予定通りの人数を採用出来るかどうか分からない状況となっており、今年度は少し多めに、採用人数を確保しようという動きがみられるのです。

さて、この「就職試験の後ろ倒し」がどのような影響を及ぼすのでしょうか。メリットとしては、①大学3年生の終わりまで勉強に集中できる、②3年次に留学していても不利にはならない、などが挙げられます。一方のデメリットとしては、先ほど述べたように、①不透明さによる企業や学生の混乱、

表1:就活スケジュール

		変更後	現在
大学3年生	12月	変更後	解禁
	1月		↓
	2月		
	3月		
大学4年生	4月	↓	
	5月		↓
	6月		
	7月		
	8月	選考活動開始 (筆記試験、面接など)	
	9月	↓	
	10月	内定	

②短期決戦の就職活動で就職が決まらなかった場合、卒業までに間に合わなくなる可能性がある、などが挙げられます。民間就職や公務員試験などの時期が重なるため、選考活動開始前には希望進路を明確にしなければならないなど、しっかりとした準備が不可欠になります。

2. インターンシップのすすめ

この就職試験の後ろ倒しへの円滑な移行を図るためには、3年次までに就業感を構築することが必要となります。これに対応するように、文部科学省では、大学等におけるキャリア教育の充実を支援するようになりました。中でも、地域全体でのインターンシップ等の普及・定着を図るよう提唱しました。インターンシップとは、学生が企業等において実習・研修的な就業体験をする制度のことです。夏季休業中に実施されることが多く、研修期間は5～10日間程度のケースが大半です。形式としては、大きく公募型と学校推薦型に

分けられます。前者は文字通り、企業が研修生を公募するもので一部には採用に直結しているケースもあります。一方、後者は、授業の一環として行われ、研修だけではなく、事前及び事後学習なども組み込まれたプログラムとなることもあります。企業側も学生側も採用活動の一環として捉えることが多いようですが、インターンシップは特定の職業に関する現場実習・研修から、働く意欲の喚起、主体的な職業選択の為の気づき、礼儀作法、マナー、ストレス耐性等を含む普遍的な社会能力を養成するという役割を果たすことを期待されています。そのため、インターンシップは、特にここ数年注目されるようになり参加学生も増加してきました。山梨英和大学でもインターンシップの取組に力を入れており、社会人になる上で必要とされるであろう、「課題解決力」、「コミュニケーション力」「人間関係調整力」などを養うことを目的とし、「課題設定型」「海外型」「長期型」の3種類の特色あるインターンシッププログラムを設定しています。なお、本学の「課題設定型」の概要は表2の通りです。

表2：インターンシップ概要

■対象	2年生、3年生
■時期	単位認定外一夏期休業期間中の1週間(実働5日間)
■エントリー	通常科目と同様、履修の手続きに則り「インターンシップ」の履修登録。履修登録後、必要書類を記入・提出。
■選考	学内(書類と面接)
■単位	2単位(事前学習、実習、事後学習、報告書提出、成果報告会に参加し、成績評価を受ける)
■実習先との交渉等	学生の希望に沿い、大学側が企業や官公庁へ受入を交渉。

ガイダンスから成績評価までの流れとしては、次のとおりです。

・ 3月下旬	インターンシップガイダンス
・ 4月初旬	インターンシップへのエントリー
・ 4月上旬	学内面接
・ 4月中旬	履修確定
・ 5~7月	事前学習(4日間・12コマ)
・ 夏季休業期間	実習(5日間)
・ 10月下旬	事後学習
・ 11月上旬	成果報告会
・ 成績評価	

本学のインターンシップは2004年度から単位科目として開講しました。これは国内の大学と比べても、早くカリキュラムとして取組んでいるもので、参加人数は次の表3のようになります。なお、2013年度の受講生は、「課題設定型」44名、「海外型」4名、「長期型」5名の計53名となっています。

表3：受入先企業及び参加人数

年度	受入企業	人数
2004	8	12
2005	14	22
2006	24	35
2007	21	27
2008	11	12
2009	25	28
2010	22	19
2011	31	28
2012	42	31
2013	25	49

参加した目的及び経験したことで良かったと思うところは表4、5のような回答となりました。

表4：参加理由

回答	回答
働くことがどういうものが体験したかったから	9
希望する仕事の実務を体験したかったから	9
就職活動全般に役立ちそうだから	6
今までにやることがない体験をしたかった	3
夏休みに目的や目標のある活動をしたかった	1
身に付けたい専門知識やスキルを獲得できそうだから	1
進められたから	1
単位を取得するため	0
学校等で学んだことを実際の現場で活用してみたいから	0
その他	0

(回答数は31で複数回答・2012年)

表5：参加してためになったこと

回答	回答
もっと勉強すべきだと思った	17
実習先の業界・企業のことが理解できた	16
卒業後の進路を考えるのに役立った	14
社会人として働くことがいかに大変かわかった	14
残りの学生時代をいかに過ごすかを考えるようになった	11
自分に何が不足しているかわかった	9
ビジネスマナーの重要性を感じるようになった	6
コミュニケーション能力がついた	5
時間を守ることの大切さがわかった	5
自分に自信がついた	1
その他	0

(回答数は31で複数回答・2012年)

この結果よりインターンシップを通して職業理解や仕事理解だけではなく、自己理解も進んだといえると考えます。また、インターンシップは、今後の学生生活の過ごし方を考えるきっかけとなったこともあり、研修自体の満足度は高くなっています。

就職試験の後ろ倒しへの円滑な移行を図るためには、3年次までに就業感を構築することが必要となります。インターンシップはその為に有効なカリキュラムであると考えられます。これからも多くの学生にインターンシップを受講していただくよう望んでおります。

人生の次のステージへ希望をつなぐ

設楽 友崇

学生相談室 主任カウンセラー

甲府では連日の猛暑の中、2014年度の前期が終わり、一見普段の表情の中に期末の不安と緊張を潜ませていた学生たちも、順々に夏休みへ入っていきました。ある学生にとっては普段はできないことに取り組める待ちに待った休みでしょうし、ある学生にとっては慣れた日常が崩れてしまう困った休みです。さらに、また別の学生にとっては、友だちと何気なく顔を合わせることが少なくなってしまうちょっと寂しい気持ちの休みでしょう。

ところで、学生相談室には例年100名程度の学生が相談に訪れます。学生たちはまさにそれぞれ異なった悩みを悩みながら個性を磨き、自分自身を成長させていきます。その一方で、学年ごとに共通して直面する課題もあります。中でも卒業期の進路決定は、学生たちにとって関心の高い難問です。ご家族にとっても同様でしょう。そして、われわれ教職員にとっても、学生一人ひとりが大学と社会とのかけはしを試行錯誤しながら築くのをどのように支援するのかは、大切な課題です。学生たちの人生に希望を与えることは、教育機関の役割のひとつだからです。

時に学生たちにとっては、その課題が重過ぎると感じられることも少なくありません。私たちカウンセラーは、文字通り身動きが取れなくなる学生や、心は止まったまま身体だけ動かしている学生に相談室で出会うことがあります。例えば、朝身体が重くて起きることができずに就職セミナーをキャンセルしてしまうとか、将来の事を考えると死にたい気持ちになるなど、深刻な体験をしている学生がいます。そういう学生たちはしばしば、強い焦りや無力感、自分には将来が無いという恐怖や絶望感に圧倒されています。また、そういう心情を持ちながら周囲に打ち明けられず、普段と変わらない様子で生活を送りながら心の内で孤立感を深め、そういう自分自身を責めていることもあります。

学生たちは相談室でカウンセラーにそのような苦しい心

持ちを時にポツリポツリと、語ります。そこを起点にして、将来について学生自身が持っているそもそもの期待や動機を確かめたり、人生の源流である親子関係やこれまでの人間関係を振り返ったりなど、様々なことがじっくりと話し合われます。そうしながら、今の自分の到達点や課題を、否定的な感情に圧倒されることなくみつめられるようになっていきます。それは、自分の将来を納得して歩んでいくために大切な作業です。

『自分の行く道は、自分できめたほうが、楽しいに決まっている。』とは、某自動車メーカーのCMコピーの一節です。多くの学生にとって、大学時代はその“行く道”のごく始まりに過ぎません。学生たちが人生の次の道程をいきいきと進んでいけるように、納得できる意思決定を応援できればと思います。また、潜在的に必要としている学生と相談室がどう繋がっていただけるのか、引き続き試行錯誤していこうと思います。



【お知らせ】

学生相談室は保護者のみなさまからのご相談もうかがっています。お子様の学生生活をご家族として支え見守っていくために、何かありましたら以下までご連絡ください。

☎ 055-222-5640 (直通)

月～金、9:00～17:00



私の学びの糧となるもの

磯 沙也加さん(4年)

私は、教育支援ボランティアに参加しています。実際に小学校に入り、不適応傾向の児童の支援を長期に渡って行います。児童がどのような問題を抱えているのか、その児童を支えている学校はどうなっているのか、を実際に見ることができ、感じ、考えることができる貴重な機会となっています。



山梨県警察本部犯罪被害者支援大学生ボランティア



甲州市農業体験事前学習

私は、心理臨床コースに所属し、様々なことを学ん

できましたが、実際の現場を見ることで、大学の中にただけだけでは学べないことがたくさんあるのだと、痛切に感じました。ボランティアに参加する中で最も悩んだことは、児童との関係づくりでした。私が支援する男子児童は、当初、私に対して敵対心をむき出しにし、睨むような目つきで私を見ていました。私に心を開いてくれる様子はなく、どうすれば心を開いてもらえるのか、とても悩みました。支援をするにあたり、クライアントとの関係がいかに重要かということは、今まで何度も大学で学ぶことができました。しかし、実際に人と接して、人の心を感じなければ、大学での学びの本当の意味を知ることができないのだと気づきました。

このような機会を与えてくださった大学や、ご理解ご協力いただいている各学校に感謝し、今後も学びの糧にしていきたいです。
*本学では2014年度より自治体に係るボランティア活動に積極的に学生が参加しています。山梨県警察本部、各市教育委員会、甲州市等多くの学生が活動しています。(社会連携センター)

学生会から

学生会会長

竹内 紀晶さん(3年)

学生会の活動を紹介致します。学生会とは中学・高校でいう生徒会の立ち位置です。様々な行事やイベントの企画・運営を行っています。その他にも、各サークルの予算の配布や決算、管理などもしています。



4月には新入生歓迎会や各サークルを紹介する場を提供するサークル説明会があり、サークル説明会ではそれぞれのサークルが個性を生かしてアピールをしています。6月には学生総会があり、全学生を対象に学生会費の前年度決算報告や今年度予算について、サークルの設立や昇格、解散を行います。7月には七夕祭りを行い、笹に願い事を書いた短冊を飾り、流しそめんやかき氷、ヨーヨー釣り、屋台の出店もあり、季節を感じるイベントとなっています。学生だけではなく近隣住民の方や幼稚園、老人ホームの方々などにも参加して頂きました。10月には仮装を行うハロウィン、12月には立食パーティ形式で行われるクリスマス祝会、1月には書き初めや抽選会を行う新年会、3月には卒業生を贈るフェアウェルパーティを行います。

この他にもバスツアーや音楽系サークルの発表の場であるメイプルビートなど、様々なイベントを行っています。学生会は年間を通して、学生に充実した楽しい学生生活を送ってもらうため、これからも活動に取り組んでいきます。

紅楓祭実行委員会から

紅楓祭実行委員会 委員長

長澤 瑞奈さん(3年)

紅楓祭実行委員会の活動をご紹介します。私たちは毎年11月に行われる学園祭「紅楓祭」に向けて、日々活動を続けています。紅楓祭はサークルが日々の活動の成果を発表する場であり、学生全体が協力し合い大学生生活の思い出を作る場でもあります。その機会が有意義なものになるように私たちは活動しています。

今年の学園祭のテーマは「虹」(なないろ)です。このテーマはみなさんが虹を見る時に感じる幸せや喜びを、紅楓祭を通して感じてほしいという願いを込めています。さらに虹はたくさんの色が重なり一つの大きな虹になるように、学生一人一人が自分の個性や色味をだし学園祭を楽しみ、そこから生まれる笑顔や楽しい気持ちの色を集めて紅楓祭という虹を作っていきたいと思います。



今年も地域の方々、企業の皆様にご協力をしていただき多くの催しものを企画しております。また、学生の企画したイベントでは新しくギネスに挑戦する予定で、ご来場のみなさんにより楽しんでいただけるよう考えております。さらに、多くの地元企業様からスポンサー協力を頂き、紅楓祭当日にもブースを出していただく予定です。そして学生はもちろん、地域のお子様からお年寄りの方まで多くの方にご来場していただきたいと思います。紅楓祭実行委員会一同、心よりお待ちしております。

2014年度 山梨英和大学後援会総会報告

日 時：2014年5月24日(土)午後2時45分～3時15分

場 所：山梨英和大学101教室

列席者：名誉副会長

開会の言葉 名誉副会長 荒井 直

あいさつ 会 長 武川 高仁

議 事

第1部 総会 (午後2時45分～午後3時15分)

- ① 2013年度山梨英和大学後援会事業報告について
- ② 2013年度山梨英和大学後援会会計決算について
- ③ 2014年度山梨英和大学後援会役員について
- ④ 2014年度山梨英和大学後援会事業計画について
- ⑤ 2014年度山梨英和大学後援会会計予算について

閉会の言葉 名誉副会長 難波 道弘

事務局から、配付資料に基づき①～⑤議案について提案説明があり、審議の結果、原案のとおり①2013年度山梨英和大学後援会事業報告について、②2013年度山梨英和大学後援会会計決算について、③2014年度山梨英和大学後援会役員について、④2014年度山梨英和大学後援会事業計画について及び⑤2014年度山梨英和大学後援会会計予算についてを承認した。

第2部 講演会 (午後3時30分～4時20分)

本多明生准教授が「感謝の心理学：感謝して受け取る者に豊かな収穫あり」と題して講演を行った。

2014年度父母懇談会

日 時：2014年9月27日(土)午前10時30分～午後3時

場 所：山梨英和大学101教室

プログラム

午前の部

10:30～ 全体会「学生生活等について」

11:00～ 講演会

演題：「Mac book Air の配布と

初年次教育での活用」

講師：専任講師(情報システムコース) 杉浦 学

11:50～ 昼 食

午後の部

13:00～ アドバイザー教員等による個別相談(事前予約制)

学生サービス部相談会(当日受付順)

(学業・成績、学生生活、就職・進路等)

山梨英和大学クリスマスツリー点火祭

日 時：2014年11月25日(火)午後5時～6時30分

場 所：山梨英和キャンパス

第一部

点火式 午後5時～5時30分

本学キャンパスにて、点火式(礼拝)を行います。聖書の言葉に耳を傾け、讃美歌を歌い、クリスマスツリーに美しいイルミネーションを灯し、みんなで祝います。

第二部

おたのしみのひととき 午後5時40分～6時30分

暖かなホールにうつり、学生の企画、運営で行うお楽しみのおひとときです。小さなお子さまにはプレゼントもあります。

一部と二部の間には、温かいスープを皆さまにお配りします。

※入場無料、申し込み不要

多くの方のご参加をお待ちしております。

【問い合わせ先】

山梨英和大学 チャペルセンター

TEL 055-223-6020(代) 055-223-6023(直)

社会連携センター

県民コミュニティカレッジ

日 時：2014年10月1日・8日・15日・22日・29日

いずれも水曜日午後7時から8時30分

場 所：山梨英和大学206教室

講 師：本学教員(本多・梶舘・飯田・森・高橋)

講座名：サイコロジー・トゥデイ

山梨英和大学心理臨床センター社会連携講演会

日 時：2014年12月23日(火)午後1時から

場 所：山梨英和大学グリーンバンクホール

講 師：松木 邦裕(京都大学教授)

演 題：「“こころの課題”とその見立て」

【問い合わせ先】

山梨英和大学 社会連携センター

TEL (055) 223-6034 FAX (055) 223-6035

2014年度 図書館フェスティバル

11月1日(土)、2日(日)の紅楓祭期間に実施いたします。

貴重図書の展示、菓の作成などを予定しております。

本学が所蔵する貴重図書をぜひご覧ください。

2014年度後期行事予定

月	日	曜	内 容
9	27	土	父母懇談会(10:30～15:00)
	24	水	後期授業開始
10	1	水	後期学費・後援会費等納入期間(～31日(金))
	1	水	履修登録期間(～7日(火))
	29	水	半日修養会(1・2時限の授業休講)
	31	金	学園祭(紅楓祭)準備(3・4・5時限の授業休講)
11	1	土	学園祭(紅楓祭)(～2日(日))
	25	火	クリスマスツリー点火祭(4・5時限の授業休講)
	26	水	月曜日の授業実施日
12	19	金	クリスマス礼拝・祝会(1・2時限の授業休講)
	22	月	特別授業日(開講日)
	23	火	冬季休業(～1月7日(水))※12月25日(木)はクリスマス休業日
1	8	木	授業再開(月曜日の授業実施日)
	16	金	1・2時限予備日 センター試験準備(3・4・5時限の授業休講)
	29	木	予備日
	30	金	入試(一般A日程)
2	3	火	1・2・3時限予備日 4・5時限通常授業
	4	水	1・2時限通常授業 3・4・5時限予備日
	5	木	予備日
	12	木	学年末追試験(～13日(金))
3	12	木	卒業礼拝
	13	金	卒業式、学位授与式
	21	土	春季休業(～3月31日(火))

2013年度山梨英和大学後援会会計決算書

収入の部

(単位:円)

科目	予算	決算	差異	摘要
前期末過入金額	10,000	10,000	0	会費誤入金額(2013年3月7日入金、2013年4月30日出金)(①)
小計	10,000	10,000	0	
前年度繰越金	313,512	313,512	0	323,512円(年度末通帳残高/前年度決算額)-10,000円(①)
前期末未収入金額	30,000	30,000	0	2013年4月30日入学の2012年度後期会費3名、30,000円(後期会費 山梨英和学院)については2013年度寄付で3名(前年度)
前期会費	6,750,000	6,900,000	△150,000	@10,000×690名
後期会費	6,580,000	6,850,000	△270,000	@10,000×685名
雑収入	700	589	111	普通預金利息156円(2013年8月12日)+普通預金利息433円(2014年2月10日) 入学記念品代金の残高11,858円(前年度)
小計	13,674,212	14,094,101	△419,889	
合計	13,684,212	14,104,101	△419,889	
特別繰入金(入学記念品代金から繰入金)		11,858		入学記念品代金の2013年8月19日現在の口座残高金額を繰入れ清算
総合計	13,684,212	14,115,959	△431,747	

支出の部

(単位:円)

科目	予算	決算	差異	摘要
前期末未過入金額(調整)	10,000	10,000	0	会費誤入金額(2013年3月7日入金、2013年4月30日出金)(①)
小計	10,000	10,000	0	
会議費	40,000	10,794	29,206	理事会・総会茶菓子代他
消耗品費	10,000	3,584	6,416	会長名刺代・ゴム印代
通信費	135,000	132,261	2,739	理事会・総会通知郵送代、後援会報郵送代他
印刷費	230,000	217,977	12,023	後援会会報・総会資料印刷代他
奨学費	1,500,000	1,500,000	0	山梨英和大学奨学資金支援
奨学費(特定寄付)	1,000,000	1,000,000	0	東日本大震災支援
設備補助積立金(定額繰入)	1,350,000	1,380,000	△30,000	設備補助積立金会計へ繰入(@2,000×690名)
設備補助積立金(特別繰入)	0	0	0	設備補助積立金会計へ特別繰入
補助活動補助給費	1,600,000	1,322,199	277,801	紅福祭(89.3万@1,000×893)・父母懇談会(21.1万)・カワハジ会(10万)・韓国評の会(1.8万)・「カワハジ」・「カワハジ」(10万)補助
厚生就職費	1,500,000	1,500,000	0	就職活動諸費協力金(就職指導・企業訪問)
福利費	140,000	0	140,000	会員・学生慶弔費
卒業記念品費	610,000	511,035	98,965	卒業記念品(@1,963.5×260名)
寄付金	5,280,000	5,496,000	△216,000	山梨英和学院へ寄付(@8,000×685名+2(前期分3名増、1名減)(①))
雑費	30,000	95,980	△65,980	前会長退任記念品代及び感謝状筆耕代・会報執筆学生代、2014年度後援会1年部会同窓会茶湯接待補助
予備費	100,000	0	100,000	
次年度繰越金	149,212	924,271	△775,059	
小計	13,674,212	14,094,101	△419,889	
合計	13,684,212	14,104,101	△419,889	
特別繰入金(入学記念品代金から繰入金)		11,858		入学記念品代金の2013年8月19日現在の口座残高金額を繰入れ清算(次年度繰越金合計(年度末通帳残高)936,129(924,271+11,858))
総合計	13,684,212	14,115,959	△431,747	

収入の部

(単位:円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	差異	摘要
前期末過入金額		10,000		
小計		10,000		
前年度繰越金	924,271	313,512	610,759	
特別繰入金(入学記念品代金から繰入金)	11,858			入学記念品代金の2013年8月19日現在の口座残高金額を繰入れ清算(次年度繰越金合計(年度末通帳残高)936,129(924,271+11,858))
前々期末未収入金額		30,000		
前期会費	6,430,000	6,750,000	△320,000	@10,000×643名
後期会費	6,200,000	6,580,000	△380,000	@10,000×620名
雑収入	500	700	△200	普通預金利息
小計	13,566,629	13,674,212	△107,583	
合計	13,566,629	13,684,212	△117,583	

支出の部

(単位:円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	差異	摘要
前期末未過入金額(調整)		10,000		
小計		10,000		
会議費	20,000	40,000	△20,000	理事会・総会茶菓子代他
消耗品費	50,000	10,000	40,000	会長名刺代、角2封筒代(3,000枚)
用品費	160,000	0	160,000	207・6教室テーブル(5脚)/前年度入学記念品代金から未充足分)
通信費	130,000	135,000	△5,000	理事会・総会通知郵送代、後援会報郵送代他
印刷費	220,000	230,000	△10,000	後援会会報・総会資料印刷代他
奨学費	1,300,000	1,500,000	△200,000	山梨英和大学奨学資金支援
奨学費(特定寄付)	1,000,000	1,000,000	0	東日本大震災支援
設備補助積立金(定額繰入)	1,286,000	1,350,000	△64,000	設備補助積立金会計へ繰入(前期会費納付枚数@2,000×643名)
設備補助積立金(特別繰入)	0	0	0	
補助活動補助給費	1,350,000	1,600,000	△250,000	紅福祭(83万@1,000×学生数)・父母懇談会(22万)・カワハジ会(10万)・韓国評の会(10万)・「カワハジ」・「カワハジ」(10万)
厚生就職費	1,300,000	1,500,000	△200,000	就職活動諸費協力金(就職指導・企業訪問)
広報補助費	1,000,000	0	1,000,000	大学広報活動補助
福利費	100,000	140,000	△40,000	会員・学生慶弔費
卒業記念品費	470,000	610,000	△140,000	卒業記念品(@2,203×213名(259(4年生219名+過年度生40名)-在庫46))
寄付金	4,960,000	5,280,000	△320,000	山梨英和学院へ寄付(後期会費納付枚数@8,000×620名)
雑費	40,000	30,000	10,000	2015年度後援会1年部会への同窓会接待補助、謝礼他
予備費	100,000	100,000	0	
次年度繰越金	80,629	149,212	△68,583	
小計	13,566,629	13,674,212	△107,583	
合計	13,566,629	13,684,212	△117,583	

2013年度山梨英和大学後援会設備補助積立金会計決算書

(1) 普通預金の部

収入の部

(単位:円)

科目	予算	決算	差異	摘要
前年度繰越金	4,773,714	4,773,714	0	
設備補助積立金(定額繰入)	1,350,000	1,380,000	△30,000	本会計から繰入(@2,000×690名)
設備補助積立金(特別繰入)	0	0	0	本会計から特別繰入
預金等利息	800	806	△6	普通預金利息350円(2013年8月12日)+普通預金利息456円(2014年2月10日)
合計	6,124,514	6,154,520	△30,006	

支出の部

(単位:円)

科目	予算	決算	差異	摘要
設備補助支出	0	0	0	
設備補助積立金	0	0	0	学生会館(クラブハウス)内設置備品購入のための定期積立金(普通預金口座から振替)定期預金設定日:2009年5月21日定期預金金額:8,000,000円期間等:1年、満期自動継続
次年度繰越金	6,124,514	6,154,520	△30,006	
合計	6,124,514	6,154,520	△30,006	

(2) 定期預金の部

(単位:円)

預入日	満期日	預入金額	自動継続金額	期間利息	利息合計	摘要
2009年5月21日	2010年5月21日	8,000,000	8,012,800	12,800	12,800	
2010年5月21日	2011年5月21日	8,012,800	8,016,646	3,846	16,646	
2011年5月21日	2012年5月21日	8,016,646	8,018,576	1,930	18,576	
2012年5月21日	2013年5月21日	8,018,576	8,020,174	1,598	20,174	
2013年5月21日	2014年5月21日	8,020,174	8,021,772	1,598	21,772	2014年5月21日(満期日)現在

(3) 設備補助積立金合計(満期日解約の場合)

(単位:円)

区分	予算	決算	差異	摘要
普通預金	6,124,514	6,154,520	△30,006	2014年3月31日現在
定期預金	8,021,772	8,021,772	0	2014年5月21日(満期日)現在
合計	14,146,286	14,176,292	△30,006	

2013年度山梨英和大学後援会入学記念品代金会計決算書

(単位:円)

科目	予算	決算	差異	摘要
前年度繰越金	27	27	0	
入学記念品代	390,000	425,000	△35,000	1-3年次入学生入学(@2500×170)後援会費に準じ、社会人学生・外国人留学生免除
預金等利息	12	16	6	
合計	390,039	425,033	△34,994	

支出の部

(単位:円)

科目	予算	決算	差異	摘要
入学記念品代	369,600	413,175	△43,575	教室用折りたたみテーブル(13脚)予算時11脚)207,208教室用)
次年度繰越金	20,439	11,858	8,581	
合計	390,039	425,033	△34,994	
後援会本会計へ繰入金		△11,858		入学記念品代金の2013年8月19日現在の口座残高金額を後援会本会計口座に繰入れ清算した。
残高		0		

2014年度山梨英和大学後援会会計予算書

2014年度山梨英和大学設備補助積立金会計予算書

(1) 普通預金の部

収入の部

(単位:円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	差異	摘要
前年度繰越金	6,154,520	4,773,714	1,380,806	
設備補助積立金(定額繰入)	1,286,000	1,350,000	△64,000	本会計から繰入(@2,000×643名)
設備補助積立金(特別繰入)	0	0	0	
預金等利息	900	800	100	
合計	7,441,420	6,124,514	1,316,906	

支出の部

(単位:円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	差異	摘要
設備補助支出	0	0	0	
設備補助積立金	0	0	0	学生会館(クラブハウス)内設置備品購入のための定期積立金(普通預金口座から振替)定期預金設定日:2009年5月21日定期預金金額:8,000,000円期間等:1年、満期自動継続
次年度繰越金	7,441,420	6,124,514	1,316,906	
合計	7,441,420	6,124,514	1,316,906	

(2) 定期預金の部

(単位:円)

預入日	満期日	金額	自動継続金額	利息	利息合計	摘要
2009年5月21日	2010年5月21日	8,000,000	8,012,800	12,800	12,800	
2010年5月21日	2011年5月21日	8,012,800	8,016,646	3,846	16,646	
2011年5月21日	2012年5月21日	8,016,646	8,018,576	1,930	18,576	
2012年5月21日	2013年5月21日	8,018,576	8,020,174	1,598	20,174	
2013年5月21日	2014年5月21日	8,020,174	8,021,772	1,598	21,772	
2014年5月21日	2015年5月21日	8,021,772	8,023,370	1,598	23,370	2015年5月21日(満期日)見込額

(3) 設備補助積立金合計(満期日解約の場合)

(単位:円)

区分	本年度予算額	前年度予算額	差異	摘要
普通預金	7,441,420	6,124,514	1,316,906	
定期預金	8,023,370	8,021,772	1,598	
合計	15,464,790	14,146,286	1,318,504	



画：藤本結衣さん(2年)